

# NEC Express5800シリーズ

# 1

## 導入編

本装置や添付のソフトウェアの特長や導入の際に知っておいていただきたい事柄について説明します。また、セットアップの際の手順について順を追って説明しています。ここで説明する内容をよく読んで、正しくセットアップしてください。

### Expressワークステーションの特長 (2ページ)

本装置の特長や添付（または別売品）のソフトウェア、および各種オプションとソフトウェアの組み合わせによって実現できるシステム管理のための機能について説明しています。

### 導入のポイント (6ページ)

本装置をご利用されるシステムを構築する際に知っておいていただきたい事柄や、参考となるアドバイスが記載されています。

### お客様登録 (10ページ)

お客様登録の方法について説明しています。Express5800シリーズ製品に関するさまざまな情報を入手できます。ぜひお客様登録をしてください。

### セットアップ (11ページ)

Expressワークステーションをお使いになれるまでに必要な手順について順を追って説明しています。

### 再セットアップ (27ページ)

ハードディスクからオペレーティングシステムを起動できなくなった場合にハードディスクの内容を出荷時の状態に戻してから再セットアップする方法について説明しています。

# Expressワークステーションの特長

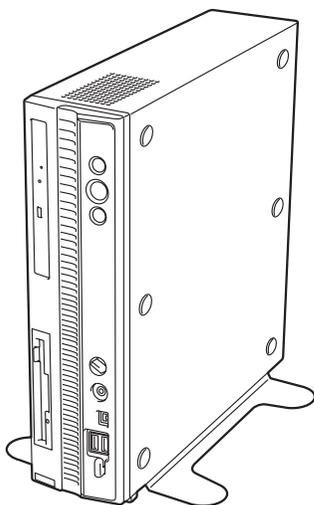
お買い求めになられたExpressワークステーションの特長を次に示します。

## 高性能

- Intel社製高性能プロセッサを搭載
- 高速1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T インタフェース (1Gbps/100Mbps/10Mbps対応)
- 高速ディスクアクセス (UltraATA対応)

## 高信頼性

- 温度異常検知
- 内蔵ファン回転監視機能
- 内部電圧監視機能
- BIOSパスワード機能



## 省スペース/省電力

- 88 (W)×325 (D)×345 (H) mm (縦置き時)の省スペース設計
- 横置き可能
- スリープ機能

## 便利なセットアップユーティリティ

- EXPRESSBUILDER (システムセットアップユーティリティ)
- ExpressPicnic (セットアップパラメータFD作成ユーティリティ)
- CMOS Setup (BIOSセットアップユーティリティ)

## すぐに使える

Microsoft® Windows® XP Professional 日本語版がインストール済み

## 管理機能

- ESM/PRO/ServerAgent
- ESM/PRO/ServerManager

## 拡張性

- PCIバス×2スロット
- AGPバス×1スロット (ロープロファイル)
- 最大2GBの大容量メモリ
- ディスク2台搭載可能
- USB2.0×4ポート
- IEEE 1394×1ポート

## 豊富な機能搭載

- サウンドスピーカ内蔵
- オーディオ端子 (LINE-IN/LINE-OUT/MIC/PHONE) 搭載
- El Torito Bootable CD-ROM(no emulation mode)フォーマットをサポート
- リモートパワーオン機能
- AC-LINK機能

## 自己診断機能

- Power On Self-Test (POST)
- システム診断ユーティリティ

前ページに示すとおり、Expressワークステーションには、コンパクトなボディにさまざまな機能が搭載されています。また、ESMPROシリーズとExpressワークステーションやオプションの周辺機器との組み合わせにより情報を一元管理したり、バックアップを容易にした最適なシステムが構築できます。

各機能はそれぞれ以下のハードウェアおよびソフトウェアにより実現しています。

管理分野	必要なハードウェア	必要なソフトウェア
本体管理	本装置	ESMPRO/ServerManager ESMPRO/ServerAgent
ディスク管理	ディスクミラーリングコントローラ*	FastCheck
ストレージ管理 (バックアップ管理)	DAT など*	ESMPRO/ServerManager ESMPRO/ServerAgent Windows バックアップツール ARCserve for Windows NT* BackupExec*、NetBackup*
電源管理	無停電電源装置 (UPS) *	Power Chute Plus*
ネットワーク管理	100BASE-TX 接続ポート*	WebSAM/Netvisor*

\* オプション製品

## 本体管理

Expressワークステーションはマザーボード上に標準でリソース監視チップを搭載しており、本体に内蔵されている以下の各種リソースを監視します。これらのハードウェア機能とExpressワークステーション管理用ソフトウェア「ESMPRO/ServerManager」、「ESMPRO/ServerAgent」が連携し、本体の稼動状況などを監視するとともに万一の障害発生時にはただちに管理者へ通報します。



ESMPRO/ServerManagerとESMPRO/ServerAgentは、Expressワークステーションに標準で添付されています。各ソフトウェアのインストール方法や使用方法は、各ソフトウェアの説明を参照してください。

ESMPRO/ServerAgentをインストールした場合、データビューアの項目ごとの機能可否は次ページの表のようになります。

機能名	可否	機能概要
ハードウェア	○	ハードウェアの物理的な情報を表示する機能です。
メモリバンク	○	メモリの物理的な情報を表示する機能です。
装置情報	○	装置固有の情報を表示する機能です。
CPU	○	CPUの物理的な情報を表示する機能です。
システム	○	CPUの論理情報参照や負荷率の監視をする機能です。メモリの論理情報参照や状態監視をする機能です。
I/Oデバイス	○	I/Oデバイス（フロッピーディスクドライブ、シリアルポート、パラレルポート、キーボード、マウス、ビデオ）の情報参照をする機能です。
システム環境	△	温度、ファン、電圧、電源、ドアなどを監視する機能です。
温度	○	筐体内部の温度を監視する機能です。
ファン	○	CPUファンを監視する機能です。
電圧	○	筐体内部の電圧を監視する機能です。
電源	X	電源ユニットの監視は未サポートです。
ドア	X	Chassis Intrusion（筐体のカバー/ドアの開閉）の監視は未サポートです。
ソフトウェア	○	サービス、ドライバ、OSの情報を参照する機能です。
ネットワーク	○	ネットワーク(LAN)に関する情報参照やパケット監視をする機能です。
拡張バスデバイス	○	拡張バスデバイスの情報を参照する機能です。
BIOS	○	BIOSの情報を参照する機能です。
ローカルポーリング	○	エージェントが取得する任意のMIB項目の値を監視する機能です。
ストレージ	○	ハードディスクドライブなどのストレージデバイスやコントローラを監視する機能です。
ファイルシステム	○	ファイルシステム構成の参照や使用率監視をする機能です。
ディスクアレイ	○	LSILogic社製およびPromise社製ディスクアレイコントローラを監視する機能です。
その他	X	Watch Dog TimerによるOSストール監視は未サポートです。

○: サポート △: 一部サポート X: 未サポート

## ストレージ管理（バックアップ管理）

大容量のストレージデバイスを搭載・接続できるExpressワークステーションを管理するために次の点について留意してください。

定期的なバックアップは、不意のシステムダウンに備える最も基本的な対応です。

Expressワークステーションには、データバックアップ用の大容量記憶装置と自動バックアップのための各種ソフトウェアが用意されています。容量や転送スピード、バックアップスケジュールの設定など、ご使用になる環境に合わせて利用してください。

## ネットワーク管理

ESMPRO/ServerManagerとESMPRO/ServerAgentを使用することにより、Expressワークステーションに内蔵されているLANカードの障害や、回線の負荷率等を監視することができます。また、別売のESMPRO/Netvisorを利用することにより、ネットワーク全体の管理を行うことができます。



Express5800/51Gaでは、IEEE1394ネットアダプタを他のIEEE1394ネットアダプタを持つ装置と接続した場合 ESMLANServiceでのLAN監視は動作できません。そのような構成の場合、監視をONにしないで下さい。

以下のような構成では監視ができません。



## 電源管理

商用電源のトラブルは、システムを停止させる大きな原因のひとつです。停電や瞬断に加え、電圧低下、過負荷配電、電力設備の故障などがシステムダウンの要因となる場合があります。

無停電電源装置（UPS）は、停電や瞬断で通常使用している商用電源の電圧が低下し始めると、自動的にバッテリーから電源を供給し、システムの停止を防ぎます。システム管理者は、その間にファイルの保存など、必要な処理を行うことができます。さらに電圧や電流の変動を抑え、電源装置の寿命を延ばして平均故障間隔（MTBF）の延長にも貢献します。また、スケジュールなどによるシステムの自動・無人運転を実現することもできます。本装置のオプションとしてサポートしているUPSは、PowerChuteシリーズで管理・制御します。

# 導入のポイント

本装置を導入するにあたって重要なポイントについて説明します。

## システム構築のポイント

お使いになるシステムにExpressワークステーションを導入するにあたり、次の点について留意してください。

まずはじめにExpressワークステーション、および添付品がすべてそろっていることを確認してください（添付の構成表を参照してください）。万一、足りないものや破損しているものがあつたときはお買い求めの販売店に連絡してください。また、システムを構築するために必要となる機器についても確認しましょう。

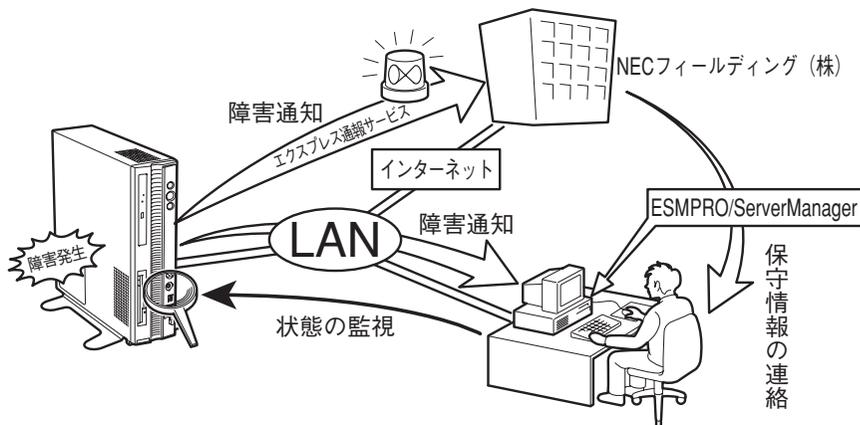
日常での運用において、Expressワークステーションの状態を管理・監視できるようなシステムを構築しておくことが望まれます。

添付の「EXPRESSBUILDER®」CD-ROMには、本装置、およびExpress5800製品の状態を監視することができるサーバ/ワークステーション管理アプリケーション「ESMPRO®」が収録されています。ESMPROは、障害が起きたときに管理PCへ障害を通知したり、その障害内容を採取したりすることができます。

ESMPROやその他の管理アプリケーション、ハードウェアの持つ機能などを効率よく使用してシステム管理やセキュリティの強化を図ってください。

なお、Expressワークステーションに障害が発生した際に、NECフィールディング（株）がアラーム通報を受信して保守を行う「エクスプレス通報サービス」を利用すれば、低コストでExpress5800シリーズの障害監視・保守を行うことができます。

「エクスプレス通報サービス」をご利用することもご検討ください。



## 電源を入れる前に

Expressワークステーションをセットアップし、システムを構築する場合は、次の順序で行います。

### ① ハードウェアのセットアップ

Expressワークステーションを箱から取り出し、最適な場所に設置後、キーボード、マウス、ディスプレイ装置のケーブル、電源コードの順でExpressワークステーション背面のコネクタに接続します。



オペレーティングシステムのセットアップが完了するまでは、内蔵オプションの取り付けや周辺機器の接続をしないでください。これらの作業は、オペレーティングシステムのセットアップが完了してから行います。

### ② オペレーティングシステムのセットアップ

購入されたExpressワークステーションにはMicrosoft Windows XP Professional 日本語版がすでにインストールされています。

#### ● Microsoft Windows XP Professional 日本語版ブレインストールモデル

そのまま電源をONにすればユーザー固有の情報など必要な設定を入力するだけで使用できるようになっています。詳しい手順は13ページで説明しています。

[システムを修復する場合は...]

システムの修復をするときは、以下の2つの方法があります。

#### ー システムの修復

何らかの原因でシステムを起動できなくなった場合は、回復コンソールを使用してシステム修復を行います。ただし、この方法は詳しい知識のあるユーザーや管理者以外にはお勧めできません。

詳細については、オンラインヘルプを参照してください。

#### ー 再セットアップ

システムの破損などが原因でオペレーティングシステム (OS) を起動できなかった場合などに添付のバックアップCD-ROMを使って再セットアップしてください。

再セットアップの方法については28ページで説明しています。

### ③ 障害処理のためのセットアップ

障害が起きた時に障害からより早く確実に復旧できるように、メモリダンプの設定、ワトソン博士の設定を行います。



ヒント

NECでは、ESMPROの他にも「エクスプレス通報サービス」と呼ばれるExpress5800製品の状態監視用サービスを用意しています。Express5800製品に障害が起きたときに自動的に保守サービス会社に通報され、保守サービス会社から保守情報の通知または保守員の派遣などのサービスを受けることができます。エクスプレス通報サービスをご契約することをお勧めします。

### ④ 管理ユーティリティのインストール

システムで検出した障害情報の管理を行うためには、ESMPRO/ServerAgentをインストールします（ESMPRO/ServerAgentは「EXPRESSBUILDER」CD-ROMからインストールすることができます）。また、ネットワーク上の管理PCからExpress5800製品の運用状態や障害情報を確認する場合は管理PCにESMPRO/ServerManagerをインストールしてください（インストールについては「ソフトウェア編」で説明しています）。ESMPRO/ServerManagerは本体にインストールして使用することもできます。



ヒント

添付のCD-ROMには、「ESMPRO/ServerAgent」と「ESMPRO/ServerManager」の2つのアプリケーションが含まれています。ESMPROには、その他にもさまざまな用途に応じたアプリケーションが用意されています。詳しくはお買い求めの販売店または保守サービス会社にお問い合わせください。

### ⑤ システム情報のバックアップ

ハードウェアとソフトウェアのすべてのセットアップを完了したら、添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMのユーティリティを使用して本体装置のシステム情報のバックアップをとります。

本体装置の故障による部品交換や修理の後にバックアップしていたシステム情報をリストアップすることで故障前と同じ状態で本製品を使用することができます。

## ネットワーク構築のポイント

ネットワークに接続する場合は、コンピュータ名やTCP/IPなどの設定が必要です。あらかじめ確認しておくことをお勧めします(後から変更することもできます)。

ネットワークを経由して、他のシステムからの指示によりExpressワークステーションの電源を投入(リモートパワーオン)する場合は、BIOSセットアップユーティリティの「Advanced」メニューの「Power Management Setup」-「Resume by PME」を [Enabled] に設定します。

## UPS接続時のポイント

Expressワークステーションの電源コードを無停電電源装置(UPS)に接続している場合、UPSからExpressワークステーションの電源を制御できる電源連動(AC-LINK)機能を使用することができます。

このAC-LINK機能を使用してExpressワークステーションの電源ON/OFFを行う場合は、BIOSセットアップユーティリティの「Advanced」メニューの「Power Management Setup」-「Restore on AC/Power Loss」を [Power On] に設定します。また、UPSを正しく動作させるためにお使いになるUPSに合ったソフトウェアの設定が必要です。ソフトウェア編を参照して正しく設定してください。

## ストレージ機能構築のポイント

本装置では、別売のSCSIコントローラを搭載することによりバックアップ装置を接続することができます。バックアップ装置とバックアップツールを使って定期的に大切なデータのバックアップをとることをお勧めします。

主なバックアップツールは次のとおりです。

- Windowsバックアップツール (Windows標準)
- ARCserve (コンピュータ・アソシエイツ社)
- BackupExec (ペリタス社)
- NetBackup (ペリタス社)

# お客様登録

NECでは、製品ご購入のお客様に「Club Express会員」への登録をご案内しております。添付の「お客様登録申込書」に必要事項をご記入の上、エクスプレス受付センターまでご返送いただくか、またはClub Expressのインターネットホームページ

<http://club.express.nec.co.jp/>

にてご登録ください。



「Club Express会員」のみならずには、ご希望によりExpress5800シリーズをご利用になる上で役立つ情報サービスを、無料で提供させていただきます。サービスの詳細はClub Expressのインターネットホームページにて紹介しております。ぜひ、ご覧ください。

# セットアップ

箱を開けてからお使いになれるまでの手順について、順を追って説明します。再セットアップの際は、「再セットアップ (27ページ)」を参照してください。



本体にWindowsのプロダクトキーが記載されたIDラベルが貼りつけられています。



OSのセットアップや再インストール時に必ず必要な情報です。剥がしたり汚したりしないよう注意してください。もし剥がれたり汚れたりして見えなくなった場合はお買い求めの販売店または保守サービス会社に連絡してください。あらかじめプロダクトキーをメモし、他の添付品といっしょにメモを保管されることをお勧めします。

## 1 ハードウェアのセットアップ

次の順序でハードウェアをセットアップします。

1. グラフィックスアクセラレータボードを別途購入している場合は、購入したオプションのグラフィックスアクセラレータボードを取り付ける (→50ページ)。



その他の内蔵デバイスは、オペレーティングシステムのセットアップを完了してから取り付けてください。

2. Expressワークステーションを使用するのに最も適した場所 (環境) に設置する (→50ページ)。
3. ディスプレイ装置やマウス、キーボードのケーブルをExpressワークステーションに接続する (→53ページ)。



プリンタなどの周辺機器は、オペレーティングシステムのセットアップを完了してから取り付けてください。

4. 添付の電源コードをExpressワークステーションと電源コンセントに接続する (→53ページ)。



一度電源がONになり、数秒で電源がOFFになります (故障ではありません)。

## 5. 装置の構成やシステムの用途に応じてBIOSの設定を変更する。

95ページに示す設定例を参考にしてください。



チェック

- BIOSのパラメータで時刻や日付の設定と確認をしてください。
- Windows XPを使用し、Pentium4を搭載している場合は、BIOSの設定で「Hyper Threading Technology」が「Enabled」になっていることを確認してください。

## EXPRESSBUILDERがサポートしているオプションボード

添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMでサポートしているオプションボードは、以下になります。もし、下記以外のオプションボードを接続するときは、オプションボード添付のマニュアルと「応用セットアップ」(38ページ)を参照してセットアップしてください。

- **EXPRESSBUILDERにてOSのインストールをサポートしているボード**
  - － N8103-74 ディスクミラーリングコントローラ
- **その他のオプション**
  - － N8103-65 SCSIコントローラ

## 2 オペレーティングシステムのセットアップ

購入されたExpressワークステーションのハードディスクは、Windows XP Professionalが個別情報を設定する前の状態でインストール済みです。

### セットアップの手順

初めて電源をONにしてセットアップするときは、次の手順でExpressワークステーションを起動して、セットアップを始めます。



本装置にインストールされているサービスパックのバージョンと、装置に添付されているサービスパックのバージョンが異なる場合があります。装置にインストールされているサービスパック以降のバージョンが添付されている場合は、装置に添付の「Windows XP RUR x 対応 (Service Pack x) インストール手順書」を参照してサービスパックのインストールをしてください。サービスパック情報に関しては、下記サイトより詳細情報を確認ください。  
[NEC 8番街] <http://nec8.com/>

Microsoft Windows XP Professionalがあらかじめインストールされているモデルの場合は、次の手順に従ってセットアップをしてください。



セットアップを完了するまでは、キーボードやマウス、ディスプレイ装置以外のデバイスを接続しないでください。

1. フロッピーディスクドライブと光ディスクドライブにディスクがセットされていないことを確認する。
2. Expressワークステーションの電源をONにする。  
Expressワークステーションは自動的に自己診断テスト (POST) を開始し、その後、「Windowsへようこそ」が開始されます。
3. 画面のメッセージに従って各種設定を完了させる。  
お客様固有のセットアップをするための画面が表示されます。表示されたメッセージに従ってセットアップを進めてください。
4. インストールの完了後、システムにログオンする。

以下のソフトウェアも併せてインストールされます。ソフトウェアのセットアップについては、「ソフトウェア編」または添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMに格納されているオンラインドキュメントを参照してください。

- － ESMPRO/ServerAgent
- － エクスプレス通報サービス
- － FastCheck

## 5. Windows XPのライセンス認証の手続きを行う。

使用するプロダクトキーは、Windows XPに含まれるプロダクトIDの記載されたCOAラベルと一致させる必要があります（COAラベルは本体に貼り付けられている場合もあります）。

以上でインストールは完了です。続いて「デバイスドライバ（標準装備）のセットアップ」に進んでください。

## デバイスドライバ（本体標準装備）のセットアップ

オプションのデバイスドライバのインストールやセットアップについてはオプションに添付の説明書を参照してください。

### ● PROSet

PROSetは、ネットワークドライバに含まれるネットワーク機能確認ユーティリティです。PROSetを使用することにより、以下のことが行えます。

- － アダプタ詳細情報の確認
- － ループバックテスト、パケット送信テストなどの診断

PROSetをインストールする場合は、以下の手順に従ってください。

1. 「EXPRESSBUILDER」CD-ROMを光ディスクドライブにセットする。
2. スタートメニューから [すべてのプログラム]、[アクセサリ] の順にポイントし、[エクスプローラ] をクリックする。
3. [<CD-ROMのドライブレター>:\\$WINNT\\$XP\\$BC5\\$PROSET\\$WS03XP32] ディレクトリ内の「PROSET.EXE」アイコンをダブルクリックする。  
[Intel(R) PROSet - Installshield ウィザード] が起動します。
4. [次へ] をクリックする。
5. [使用許諾契約の条項に同意します] を選択し、[次へ] をクリックする。
6. [標準] を選択し、[次へ] をクリックする。
7. [インストール] をクリックする。  
[InstallShieldウィザードを完了しました] ウィンドウが表示されます。
8. [完了] をクリックする。
9. システムを再起動させる。

以上で完了です。

## ● ネットワークアダプタの詳細設定

標準装備のネットワークドライバは、自動的にインストールされますが、転送速度と Duplexモードの設定が必要です。

また、必要に応じてプロトコルやサービスの追加/削除をしてください。[ネットワークとダイヤルアップ接続] からローカルエリア接続のプロパティ ダイアログボックスを表示させて行います。



ネットワークドライバを削除してしまった場合は、システムを再起動してください。自動的にインストールされます。

ー PROSetがインストールされていない場合

### 1. [ローカルエリア接続のプロパティ] ダイアログボックスを開く。

<標準のスタートメニューモードの手順>

- (1) スタートメニューから[コントロールパネル]→[ネットワーク接続]→[ローカルエリア接続]をクリックする。

[ローカルエリア接続の状態]ダイアログボックスが表示されます。

- (2) [プロパティ]をクリックする。

<クラシックスタートメニューモードの手順>

- (1) スタートメニューから[設定]→[ネットワーク接続]をクリックする。
- (2) [ローカル接続]アイコンを右クリックし、コンテキストメニューから[プロパティ]をクリックする。

### 2. [構成] をクリックする。

ネットワークアダプタのプロパティダイアログボックスが表示されます。

### 3. [詳細設定] タブをクリックし、[リンク速度とデュプレックス] をハブの設定値と同じ値に設定する。

### 4. Intel(R) PRO/1000 CT Network Connectionのプロパティ] ダイアログボックスの[OK]をクリックする。

以上で完了です。

- ー PROSetがインストールされている場合
  - 1. [Intel PROSet]ダイアログボックスを表示する。  
 <標準のスタートメニューモードの手順>  
 スタートメニューから[コントロールパネル]→[Intel PROSet]をクリックする。  
 <クラシックスタートメニューモードの手順>  
 (1) スタートメニューから[設定]→[コントロールパネル]をクリックする。  
 (2) [Intel PROSet]アイコンをダブルクリックする。
  - 2. リスト中の [Intel(R) PRO/1000 CT Network Connection] をクリックして選択する。
  - 3. [速度] タブをクリックし、[リンク速度とデュプレックス]をハブの設定値と同じ値に設定する。
  - 4. [Intel PROSet] ダイアログボックスの[適用]をクリックし、[OK]をクリックする。
- 以上で完了です。



サービスの追加にて、[ネットワークモニタ]を追加することをお勧めします。  
 [ネットワークモニタ]は、[ネットワークモニタ]をインストールしたコンピュータが送受信するフレーム（またはパケット）を監視することができます。ネットワーク障害の解析などに有効なツールです。インストールの手順は、この後の「障害処理のためのセットアップ」を参照してください。

## ● オプションのネットワークボードのドライバ

オプションのネットワークボード(N8104-111)を使用する場合は、「EXPRESSBUILDER」CD-ROMに格納されているドライバをインストールしてください。

N8104-111のドライバ

[<CD-ROMのドライブレター>:\\$WINNT\\$XP\\$BC5\\$PRO100\\$WS03XP32]

オプションのネットワークドライバのインストールは以下の手順でインストールしてください。インストール手順が不明な場合は、「オプションボード用ネットワークドライバのインストール」の項を参照してください。

1. デバイスマネージャを起動する。
2. ネットワーク アダプタ]→[Intel(R) PRO/100~]をダブルクリックする。  
 [Intel(R) PRO/100~のプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。



「Intel(R) PRO/1000 CT Network Connection」はオンボードになります。  
 これ以外のネットワークアダプタ名がオプションボードになります。

3. [ドライバ]タブを選択し、[ドライバの更新]をクリックする。  
 [ハードウェアの更新ウィザード]が表示されます。
4. [一覧または特定の場所からインストールする(詳細)]を選択し、[次へ]をクリックする。

5. [次の場所で最適なドライバを検索する]を選択し、[次の場所を含める]にチェックを入れ、「<CD-ROMのドライブレター>:¥WINNT¥XP¥BC5¥PRO100¥WS03XP32」と入力し、[次へ]をクリックする。

ドライバの検索が開始され、検索後インストールが始まります。

6. [ハードウェアの更新ウィザードの完了]画面が表示されます。

[完了]をクリックする。

以上で完了です。

## ● SCSIコントローラのドライバ

SCSIコントローラ(N8103-65)を使用する場合は、次の手順でインストールして下さい。

1. [スタート]メニューから-[コントロールパネル]-[管理ツール]-[コンピュータの管理]から[デバイスマネージャ]を起動する。
2. デバイスマネージャで不明なデバイスとして登録されているSCSIコントローラをダブルクリックする。
3. [ドライバの更新]をクリックする。  
ハードウェアの更新ウィザードが表示されます。
4. 「一覧または特定の場所からインストールする(詳細)」を選択し、[次へ]をクリックする。
5. 「検索しないで、インストールするドライバを選択する」を選択し[次へ]をクリックする。
6. [ディスク使用(H)]をクリックする。
7. フロッピーディスクドライブに「Windows XP OEM-DISK for Express5800」をセットして、製造元のファイルコピー元に「a:¥」と入力し、[OK]をクリックする。
8. 以下のドライバを選択し、[次へ]をクリックする。

N8103-65使用時：[INITIO INI-A10XU2W SCSI Host Adapter]



Windowsロゴテストに合格していない旨のポップアップが出る場合がありますが、システム上問題ありません。[OK]をクリックし処理を継続してください。

これでドライバのインストールは完了です。画面の指示に従ってシステムを再起動してください。

## ● グラフィックスアクセラレータドライバ（ディスプレイドライバ）

標準装備のグラフィックスアクセラレータドライバは、購入時にインストール済みです（再セットアップの際にも自動的にインストールされます）。

オプションのグラフィックスアクセラレータボードを使用される場合は、Expressワークステーションまたはグラフィックスアクセラレータボードに添付の説明書とディスク（フロッピーディスクかCD-ROM）を使用してドライバをインストールしてください。

- サウンドドライバ

サウンドドライバは、以下の手順でインストールしてください。

1. 「EXPRESSBUILDER」 CD-ROMを光ディスクドライブにセットする。  
メニューが表示された場合はメニューを終了してください。
2. スタートメニューから[すべてのプログラム]、[アクセサリ]の順にポイントし、[エクスプローラ]をクリックする。
3. 「<CD-ROMのドライブレター >:\¥WINNT¥SOUND」ディレクトリ内の「SETUP.EXE」アイコンをダブルクリックする。  
コマンドプロンプトが表示されます。
4. SoundMAX サウンドドライバのインストール画面が表示されるので「次へ」ボタンを選択する。
5. 「InstallShieldウィザードの完了」画面が表示されるので、「はい、今すぐコンピュータを再起動します。」を選択して、「完了」ボタンをクリックする。  
自動で、再起動が行われます。

- USB2.0ドライバ

USB 2.0ドライバは、購入時にインストール済みです。システムの修復や再セットアップの際は、システムのアップデートを行うと自動的にインストールされます。

## システムのアップデート（サービスパックの適用）

システムのアップデートは、購入時に自動で適用されていますが、次のような場合は、必ずシステムのアップデートを行ってください。

- システムの修復を行った場合(内蔵オプションの機器を取り付け/取り外しをした場合)
- システムの構成を変更した場合
- バックアップ媒体からシステムをリストアした場合

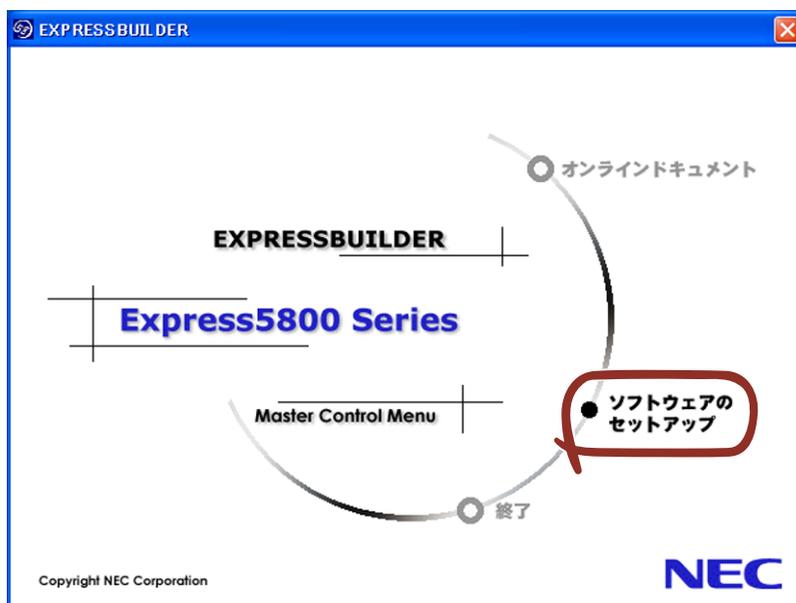
(サービスパック関連のExpress5800用差分モジュールを適用したシステムの場合は、再度RURのFDを使用してExpress5800用差分モジュールを適用してください。このときサービスパックを再適用する必要はありません)



POINT

本装置ではServicePack なし/1/1a は、サポートしておりません。ServicePack 2以上を使用する必要があります。ServicePack 2が含まれたWindows XP CD-ROMを使用しインストールをされた場合は、再度Service Pack 2を適用する必要はありません。

管理者権限のあるアカウント（Administratorなど）で、システムにログインした後、「EXPRESSBUILDER」CD-ROMを本体の光ディスクドライブにセットしてください。表示された画面「マスターコントロールメニュー」の[ソフトウェアのセットアップ]を左クリックし、メニューから[システムのアップデート]をクリックすると起動します。以降は画面に表示されるメッセージに従って処理を進め、サービスパックを適用してください。



### 3 障害処理のためのセットアップ

障害が起きたとき、より早く、確実に障害から復旧できるように、あらかじめ次のようなセットアップをしておいてください。

#### メモリダンプ（デバッグ情報）の設定

本装置内のメモリダンプ（デバッグ情報）を採取するための設定です。



##### メモリダンプの注意

- メモリダンプの採取は保守サービス会社の保守員が行います。お客様はメモリダンプの設定のみを行ってください。
- ここで示す設定後、障害が発生し、メモリダンプを保存するために再起動すると、起動時に仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示される場合がありますが、そのまま起動してください。起動し直すと、メモリダンプを正しく保存できない場合があります。

次の手順に従って設定します。

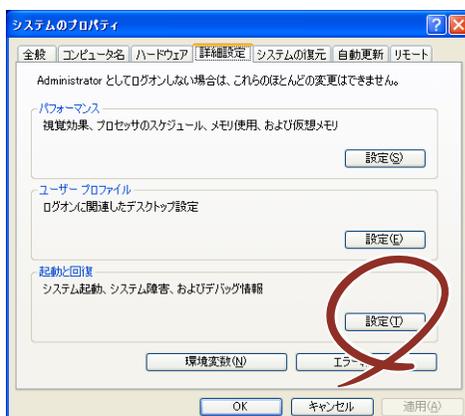
1. スタートメニューから [コントロールパネル] をクリックする。  
[コントロールパネル] ウィンドウが表示されます。
2. [コントロールパネル] ウィンドウから [パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする。



クラシック表示にしている場合は、[コントロールパネル] から直接 [システム] をクリックしてください。

3. [システム] をクリックする。  
[システムのプロパティ] ダイアログボックスが表示されます。
4. [詳細設定] タブをクリックする。

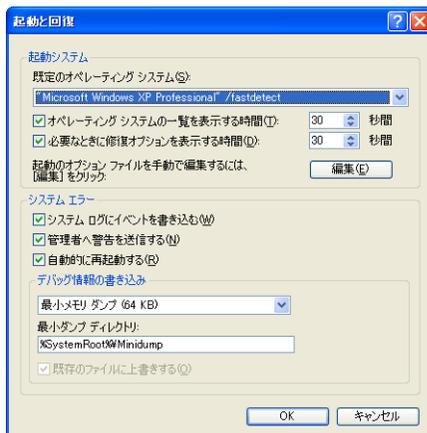
5. [起動と回復] ボックスの [設定] をクリックする。



6. テキストボックスにデバッグ情報を書き込む場所を入力する。

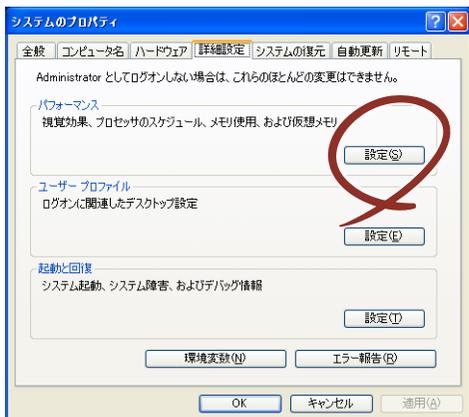
<Dドライブに「MEMORY.DMP」というファイル名で書き込む場合>

D:¥MEMORY.DMP

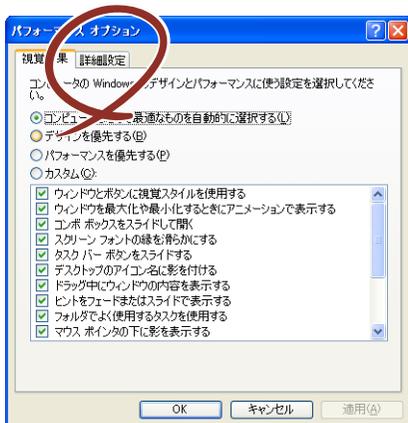


- デバッグ情報の書き込みは [完全メモリダンプ] を指定することを推奨します。ただし、搭載メモリサイズが2GBを超える場合は、[完全メモリダンプ] を指定することはできません(メニューに表示されません)。その場合は、[カーネルメモリダンプ] を指定してください。
- 本装置に搭載しているメモリサイズ+12MB以上(メモリサイズが2GBを超える場合は、2048MB+12MB以上)の空き容量のあるドライブを指定してください。
- メモリ増設により搭載メモリサイズが2GBを超える場合は、メモリ増設前にデバッグ情報の書き込みを [カーネルメモリダンプ] に変更してください。また、メモリ増設により採取されるデバッグ情報(メモリダンプ)のサイズが変わります。デバッグ情報(メモリダンプ)の書き込み先ドライブの空き容量を確認してください。

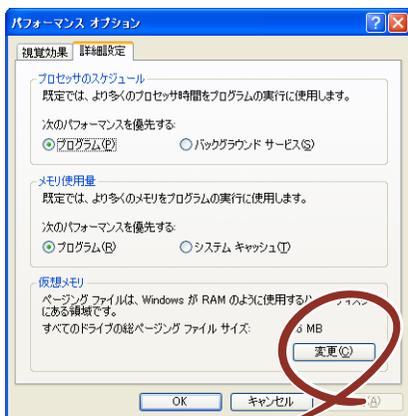
7. [パフォーマンス] ボックスの [設定] をクリックする。  
[パフォーマンスオプション] ウィンドウが表示されます。



8. [パフォーマンスオプション] ウィンドウの [詳細設定] タブをクリックする。

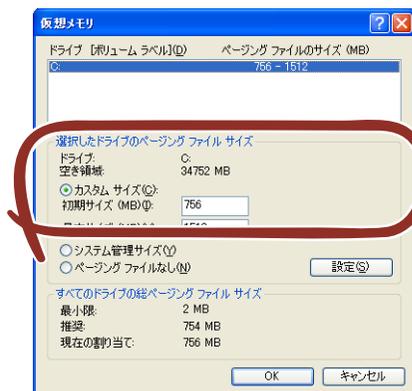


9. [仮想メモリ] ボックスの [変更] をクリックする。



10. [選択したドライブのページングファイルサイズ] ボックスの [初期サイズ] を [推奨] 値以上に変更し、[設定] をクリックする。

ページングファイルの [初期サイズ] は、搭載メモリサイズの約1.5倍を目安に設定してください。



- 必ずOSパーティションに上記のサイズで作成してください。STOPエラーが発生したときにデバッグ情報（メモリダンプ）を採取するために必要なサイズです。ページングファイルサイズの [初期サイズ] を「推奨」値未満に設定すると正確なデバッグ情報（メモリダンプ）を採取できない場合があります。
- メモリを増設した際は、メモリサイズに合わせてページングファイルの再設定を行ってください。
- 「推奨」値については、「作成するパーティションサイズについて(29ページ)」を参照してください。
- 障害発生時に備えて、事前にDUMPスイッチを押して正常にメモリダンプの採取ができることを確認しておくことをお勧めします。

11. [OK] をクリックする。

設定の変更内容によってはシステムを再起動するようメッセージが表示されます。メッセージに従って再起動してください。

## ワトソン博士の設定

ワトソン博士はアプリケーションエラー用のデバッガです。アプリケーションエラーを検出するとExpressワークステーションを診断し、診断情報（ログ）を記録します。診断情報を採取できるように次の手順に従って設定してください。



ワトソン博士の設定は、本装置購入時、および再セットアップ時に自動的に設定されています。

1. スタートメニューの「ファイル名を指定して実行」をクリックする。
2. 「名前」ボックスに「drwtsn32.exe」と入力し、「OK」をクリックする。

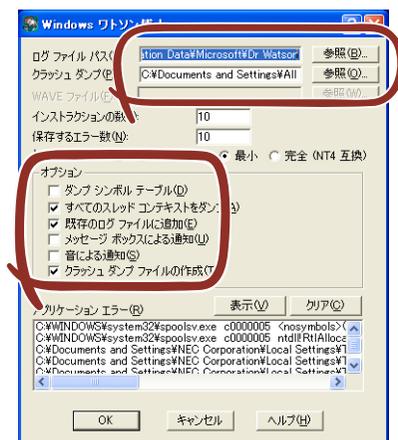
ワトソン博士のダイアログボックスが表示されます。



3. 「ログファイルパス」ボックスに診断情報の保存先を指定する。

「DRWTSN32.LOG」というファイル名で保存されます。

<Windows XPでの設定例>



チェック

ネットワークパスは指定できません。ローカルコンピュータ上のパスを指定してください。

4. 「クラッシュダンプ」ボックスにクラッシュダンプファイルの保存先を指定する。



「クラッシュダンプファイル」はWindows Debuggerで読むことができるバイナリファイルです。

5. [オプション] ボックスにある次のチェックボックスをオンにする。

- － ダンプシンボルテーブル
- － すべてのスレッドコンテキストをダンプ
- － 既存のログファイルに追加
- － クラッシュダンプファイルの作成

それぞれの機能の説明についてはオンラインヘルプを参照してください。

6. [OK] をクリックする。

## 4 管理ユーティリティのインストール

添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMには、本装置監視用の「ESMPRO/ServerAgent」、および本装置管理用の「ESMPRO/ServerManager」などが収録されています。これらのユーティリティは、「EXPRESSBUILDER」CD-ROMからインストールすることができます。



再セットアップを行ったときは、これらのユーティリティを個別にインストールしてください。



詳細については、「ソフトウェア編」の「Express本体用バンドルソフトウェア」または装置に添付されている別冊の説明書を参照して使用環境に合った状態に設定してください。  
また、ユーティリティには、ネットワーク上の管理PCにインストールするものもあります。詳しくは第3編の「ソフトウェア編」を参照してください。

## 5 システム情報のバックアップ

システムのセットアップが終了した後、EXPRESSBUILDER CD-ROMを使って、システム情報をバックアップすることをお勧めします。

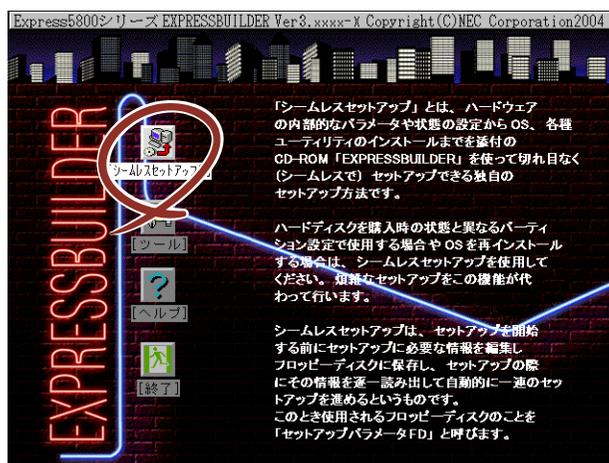
システム情報のバックアップがないと、修理後にお客様の装置固有の情報や設定を復旧（リストア）できなくなります。次の手順に従ってバックアップをとってください。

1. 3.5インチフロッピーディスクを用意する。
2. 「EXPRESSBUILDER」CD-ROMを本装置の光ディスクドライブにセットして、再起動する。  
EXPRESSBUILDERから起動して「EXPRESSBUILDERトップメニュー」が表示されます。
3. [ツール] — [システム情報の管理] を選択する。
4. [システム情報の管理] から [退避] を選択する。  
以降は画面に表示されるメッセージに従って処理を進めてください。

# 再セットアップ

再セットアップとは、システムの破損などが原因でオペレーティングシステム（OS）を起動できなくなった場合などに添付の「バックアップCD-ROM」を使ってハードディスクドライブを出荷時の状態に戻してシステムを起動できるようにするものです。

再セットアップは添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMのメニューから起動します。



[シームレスセットアップ] をクリックすると、OSの再セットアップを開始します。



シームレスセットアップを使用しないインストール方法など、特殊なセットアップについては、本編の「応用セットアップ」で説明しています。

## 再セットアップ —シームレスセットアップ—

EXPRESSBUILDERの「シームレスセットアップ」機能を使ってExpressワークステーションをセットアップします。

「シームレスセットアップ」とは、ハードウェアの内部的なパラメータや状態の設定からWindows XP、各種ユーティリティのインストールまでを添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMを使って切れ目なく（シームレスで）セットアップできるExpress5800シリーズ独自のセットアップ方法です。ハードディスクドライブを購入時の状態と異なるパーティション設定で使用する場合やOSを再インストールする場合は、シームレスセットアップを使用してください。煩雑なセットアップをこの機能が代わって行います。

シームレスセットアップは、セットアップを開始する前にセットアップに必要な情報を編集しフロッピーディスクに保存し、セットアップの際にその情報を逐一読み出して自動的に一連のセットアップを進めるというものです。このとき使用されるフロッピーディスクのことを「セットアップパラメータFD」と呼びます。



- 「セットアップパラメータFD」とはシームレスセットアップの途中で設定・選択する情報が保存されたセットアップ用ディスクのことです。シームレスセットアップは、この情報を元にしてすべてのセットアップを自動で行います。この間は、Expressワークステーションのそばにいて設定の状況を確認する必要はありません。また、再インストールのときに前回使用したセットアップパラメータFDを使用すると、前回と同じ状態にExpressワークステーションをセットアップすることができます。
- セットアップパラメータFDはEXPRESSBUILDERパッケージの中のブランクディスクをご利用ください。
- セットアップパラメータFDはEXPRESSBUILDERにある「ExpressPicnic<sup>®</sup>」を使って事前に作成しておくことができます。

事前に「セットアップパラメータFD」を作成しておくこと、シームレスセットアップの間に入力や選択しなければならない項目を省略することができます（セットアップパラメータFDにあるセットアップ情報は、シームレスセットアップの途中で作成・修正することもできます）。Expressワークステーションの他にWindows 95/98/Me、Windows NT 3.51以降、Windows XP/2000またはWindows Server 2003で動作しているコンピュータがお手元にある場合は、ExpressPicnicを利用してあらかじめセットアップ情報を編集しておくことをお勧めします。

ExpressPicnicを使ったセットアップパラメータFDの作成方法については、128ページで説明しています。

## OSのインストールについて

OSのインストールを始める前にここで説明する注意事項をよく読んでください。

### 本装置がサポートしているOSについて

Windows XPの中で本装置がサポートしているバージョンはMicrosoft Windows XP Professional 日本語版（以降、「Windows XP」と呼ぶ）です。

その他のOSをインストールするときはお買い求めの販売店または保守サービス会社にお問い合わせください。

## Windows XPについて

Windows XPは、シームレスセットアップでインストールできます。ただし、次の点について注意してください。



- インストールを始める前にオプションの増設やExpressワークステーション本体のセットアップ（BIOSやオプションボードの設定）をすべて完了させてください。
- 弊社が提供している別売のソフトウェアパッケージにも、インストールに関する説明書が添付されていますが、本装置へのインストールについては、本書の説明を参照してください。
- シームレスセットアップを完了した後に20ページを参照して「メモリダンプの設定」などの障害処理のための設定をしてください。
- シームレスセットアップでは、ステップバイステップインタラクティブは自動でインストールされません。

## ミラー化されているボリュームへのインストールについて

「ディスクの管理」を使用してミラー化されているボリュームにインストールする場合は、インストールの実行前にミラー化を無効にして、ベーシックディスクに戻し、インストール完了後に再度ミラー化してください。

ミラーボリュームの作成あるいはミラーボリュームの解除および削除は「コンピュータの管理」内の「ディスクの管理」から行えます。

## MO装置の接続について

Windows XPをインストールするときにMO装置を接続したまま作業を行うと、インストールに失敗することがあります。MO装置を外してインストールを最初からやり直してください。

## DAT等のメディアについて

シームレスセットアップでは、DAT等のインストールに不要なメディアはセットしないでください。

## 作成するパーティションサイズについて

システムをインストールするパーティションの必要最小限のサイズは、次の計算式から求めることができます。

インストールに必要なサイズ + ページングファイルサイズ + ダンプファイルサイズ + ハイパネーション用サイズ + アプリケーションサイズ

インストールに必要なサイズ = 2700MB  
 ページングファイルサイズ（推奨） = 搭載メモリサイズ × 1.5  
 ダンプファイルサイズ = 搭載メモリサイズ + 12MB  
 ハイパネーション用サイズ = 搭載メモリサイズ  
 アプリケーションサイズ = 任意



- 上記ページングファイルサイズはデバッグ情報(メモリダンプ) 採取のために必要なサイズです。ページングファイルサイズの初期サイズを「推奨」値未満に設定すると正確なデバッグ情報(メモリダンプ)を採取できない場合があります。
- 1つのパーティションに設定できるページングファイルサイズは最大で4095MBです。搭載メモリサイズ×1.5倍のサイズが4095MBを超える場合は、4095MBで設定してください。
- 搭載メモリサイズが2GB以上の場合のダンプファイルサイズは、最大で「2048MB+12MB」です。
- その他アプリケーションなどをインストールする場合は、別途そのアプリケーションが必要とするディスク容量を追加してください。

例えば、搭載メモリサイズが512MBの場合、必要最小限のパーティションサイズは、前述の計算方法から

$$2700\text{MB} + (512\text{MB} \times 1.5) + (512\text{MB} + 12\text{MB} + 512\text{MB} + \text{アプリケーションサイズ}) = 4504\text{MB} + \text{アプリケーションサイズ}$$

となります。



- シームレスセットアップでインストールする場合、必要最小限のパーティションサイズは以下のように計算してください。
  - － Windows XP Service Packを適用しない場合  
前述の必要最小限のパーティションサイズ」または「4095MB」のうち、どちらか大きい方
  - － Windows XP Service Packを適用する場合  
「前述の必要最小限のパーティションサイズ+ 850MB」または「4095MB」のうち、どちらか大きい方

システムをインストールするパーティションサイズが「インストールに必要なサイズ + ページングファイルサイズ」より小さい場合はパーティションサイズを大きくするか、ディスクを増設してください。ダンプファイルサイズを確保できない場合は、次のように複数のディスクに割り当てることで解決できます。

1. 「インストールに必要なサイズ + ページングファイルサイズ」を設定する。
2. 「障害処理のためのセットアップ」を参照して、デバッグ情報(ダンプファイルサイズ分)を別のディスクに書き込むように設定する。

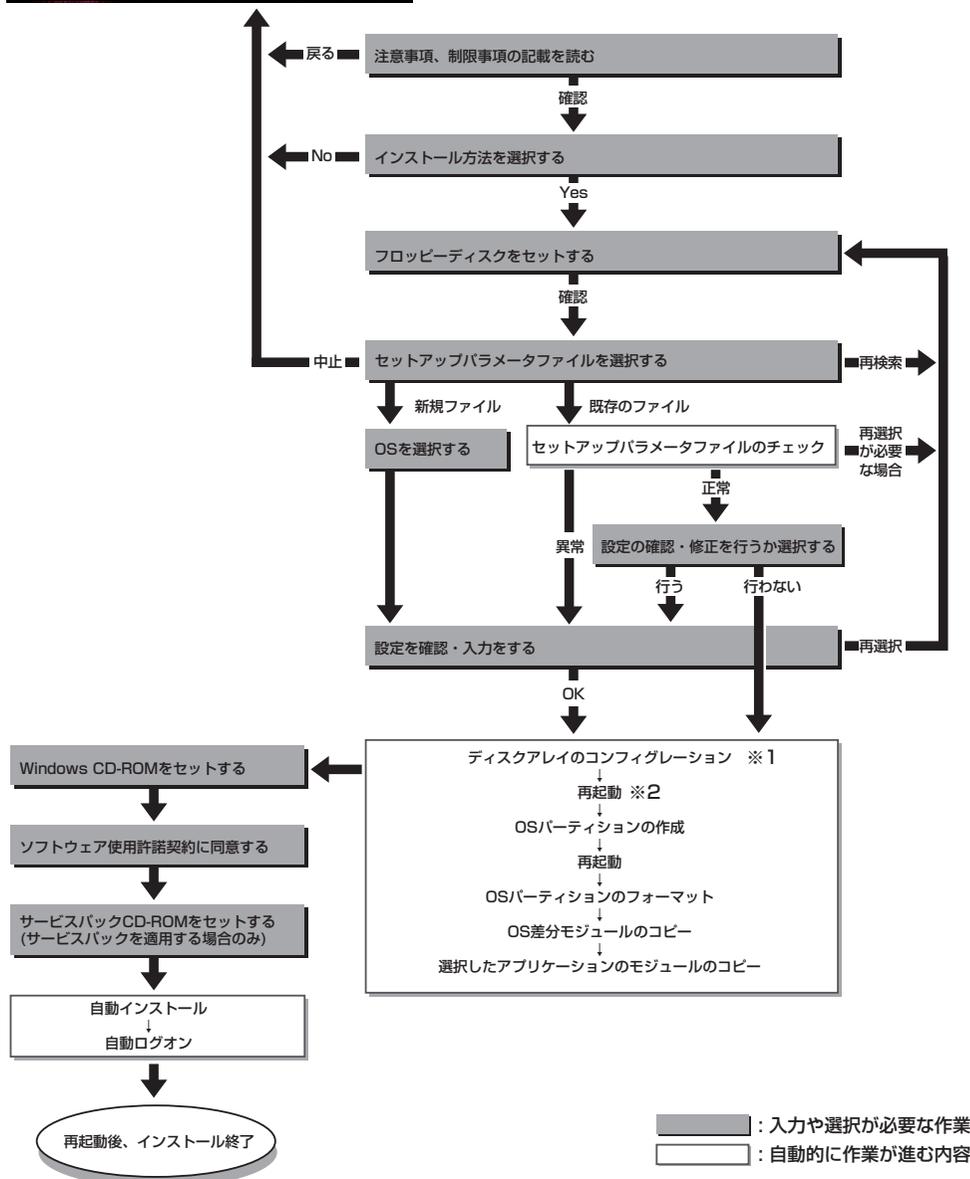
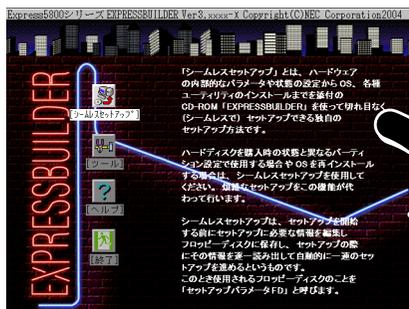
ダンプファイルサイズを書き込めるスペースがディスクにない場合は「インストールに必要なサイズ + ページングファイルサイズ」でインストール後、新しいディスクを増設してください。

## アップグレードインストールについて

Windows 2000からのアップグレードインストールを行う場合は、Windows 2000を格納したパーティションに約630MBの空き容量が必要です。空き容量が不足している場合には、不要なファイルを削除するなどして、空き容量を確保してください。

# セットアップの流れ

シームレスセットアップで行うセットアップの流れを図に示します。



※1 ディスクミラーリングコントローラが搭載されていて、セットアップパラメータファイルで「RAIDの新規作成」がチェックされている場合のみ、この処理が実行されます。  
 ※2 OSの選択で[その他]を選択したときはここで終了する。

## セットアップの手順

次にシームレスセットアップを使ったセットアップの手順を説明します。

セットアップパラメータFDを準備してください。事前に設定したセットアップパラメータFDがない場合でもインストールはできますが、その場合でもMS-DOS 1.44MBフォーマット済みのフロッピーディスクが1枚必要となります。セットアップパラメータFDは、EXPRESSBUILDERパッケージの中のブランクディスクを使用するか、お客様でフロッピーディスクを1枚用意してください。



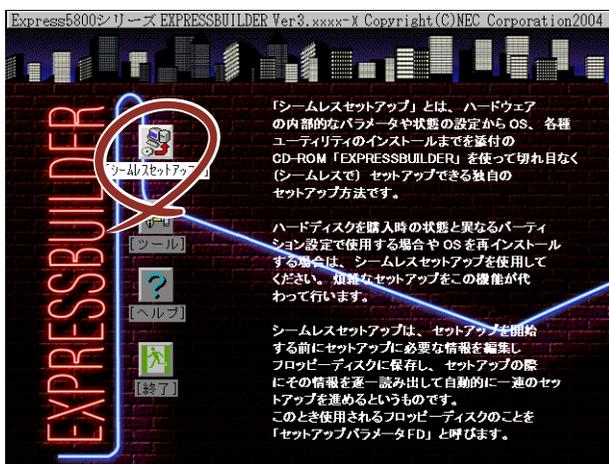
- システムの構成を変更した場合は「システムのアップデート」を行ってください。
- Windows XPの起動後にサウンドドライバや、ネットワークアダプタなどのドライバの変更、または追加する場合は、オンラインドキュメントの「Microsoft Windows XPインストールサブプリメントガイド」を参照してください。
- セットアップを開始したら、指示があるまでセットアップパラメータFDを取り出さないでください。

1. 周辺装置、Expressワークステーションの順に電源をONにする。
2. Expressワークステーションの光ディスクドライブに「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをセットする。
3. CD-ROMをセットしたら、リセットする（<Ctrl> + <Alt> + <Delete>キーを押す）か、電源をOFF/ONしてシステムを再起動する。

CD-ROMからシステムが立ち上がり、EXPRESSBUILDERが起動します。

4. [シームレスセットアップ] をクリックする。

「セットアップパラメータFDを挿入してください。」というメッセージが表示されます。



5. 「セットアップパラメータFD」をフロッピーディスクドライブにセットし、[確認]をクリックする。



- 「セットアップパラメータFD」をお持ちでない場合でも、1.44MBのフォーマット済みフロッピーディスク（ブランクディスク）をフロッピーディスクドライブにセットし、[確認]をクリックしてください。
- セットアップを開始したら、指示があるまでセットアップパラメータFDを取り出さないでください。

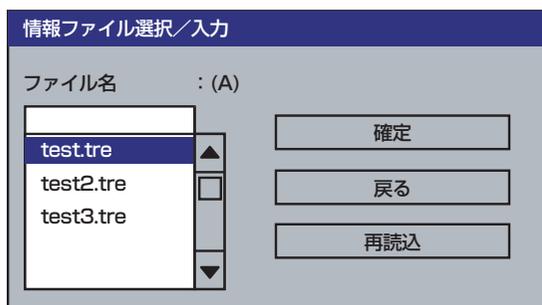
#### 【設定済みのセットアップパラメータFDをセットした場合】

セットした「セットアップパラメータFD」内のセットアップ情報ファイルが表示されます。

- (1) インストールに使用するセットアップ情報ファイル名を選択する。



選択されたセットアップ情報ファイルに修正できないような問題がある場合（たとえばExpressPicnic Ver.4以前で作成される「Picnic-FD」をセットしているときなど）、再度「セットアップパラメータFD」のセットを要求するメッセージが表示されます。セットしたフロッピーディスクを確認してください。



セットアップ情報ファイルを指定すると、「セットアップ情報ファイルのパラメータの確認、修正を行いますか」というメッセージが表示されます。

- (2) 確認する場合は [確認] を、確認せずにそのままインストールを行う場合は、[スキップ] をクリックする。

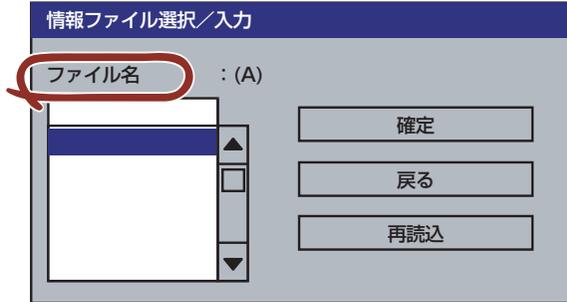
[確認] をクリック→手順6へ進む

[スキップ] をクリック→手順7へ進む

## [ブランクディスクをセットした場合]

- (1) [ファイル名:(A)] の下にあるボックス部分をクリックするか、<A>キーを押す。

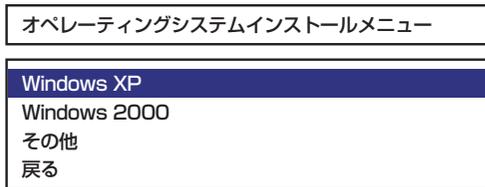
入力ボックスが表示されます。



- (2) ファイル名を入力し、確定ボタンをクリックする。

[オペレーティングシステムインストールメニュー] が表示されます。リストには、この装置がサポートしているOSが表示されます。

- (3) リストボックスからインストールする [Windows XP] を選択する。



## 6. OSのインストール中に設定する内容を確認する。

本体にRAIDコントローラが搭載されている場合は、[アレイディスクの設定] 画面が表示されます。設定内容を確認し、必要なら修正を行ってから [次へ] をクリックしてください。



次に、「基本情報」画面が表示されます。設定内容を確認し、必要なら修正を行ってから「次へ」をクリックしてください（画面中の「対象マシン」は機種によって表示が異なります。）

以降、画面に表示される「次へ」、「戻る」、「キャンセル」をクリックして設定を確認しながら画面を進めてください。設定内容は必要に応じて修正してください。

<表示例>

[基本情報]	
対象マシン	Express5800/xxx
OSの種類	Windows XP
OSの言語	日本語
パーティションの使用方法	新規に作成する
パーティションサイズ (全領域=*)	8192
ファイルシステムの NTFS へのフォーマット	する
サービスパックの適用	しない
インストール	WINDOWS

再読み込み   次へ   キャンセル

対象マシン



重要

- OSをインストールするパーティションは、必要最小限以上のサイズで確保してください。
- 「パーティションの使用方法」で「既存パーティションを使用する」を選択すると、最初のパーティションの情報はフォーマットされ、すべてなくなります。それ以外のパーティションの情報は保持されます（下図参照）。

第1パーティション	第2パーティション	第3パーティション
削除	保持	保持

- 「パーティションの使用方法」で「新規に作成する」を選択したとき、「パーティション」の設定値は実領域以上の値を指定しないでください。
- 「パーティション」に4095MB以外を指定した場合はNTFSへのコンパクトが必要です。
- 「パーティションの使用方法」で「既存パーティションを使用する」を選択したとき、流用するパーティション以外にパーティションが存在しなかった場合、そのディスクの最大領域を確保してWindows XPをインストールします。
- 設定内容に不正がある場合は、次の画面には進めません。
- 前画面での設定内容との関係でエラーとなり、前画面に戻って修正し直さなければならない場合もあります。
- ここでは日本語での入力できません。使用者名と会社名を日本語で入力したい場合は、ログオン後に入力画面がポップアップされますので、その時に再入力してください。ここでは、仮の名前を入力してください。
- 「既存パーティションを使用する」を選択する場合、流用するパーティション（OSシステムパーティション以外）にActiveなパーティションが存在してはいけません。

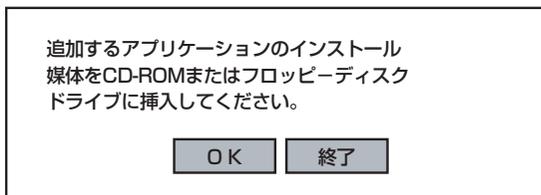


- [基本情報] 画面にある [再読込] をクリックすると、セットアップ情報ファイルの選択画面に戻ります。[再読込] は、[基本情報] 画面にのみあります。
- [コンピュータの役割] 画面にある [終了] をクリックすると、その後の設定はシームレスセットアップの既定値を自動的に選択して、インストールを行います。

設定を完了すると自動的に再起動します。

## 7. 追加するアプリケーションをインストールする。

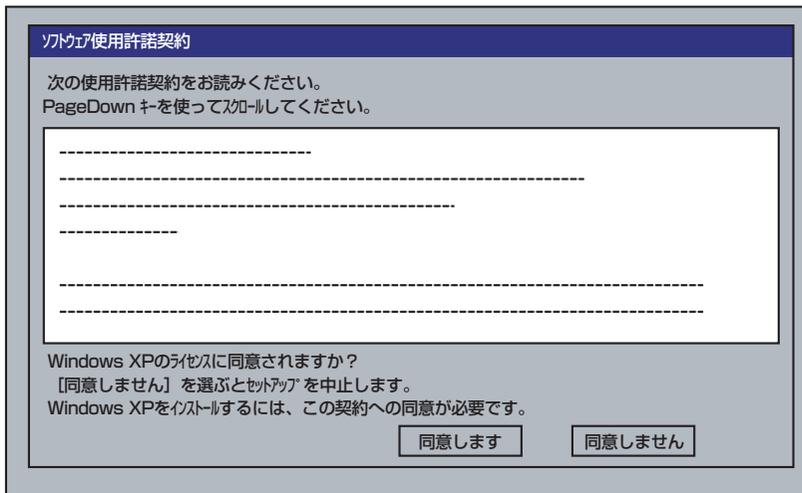
シームレスセットアップに対応しているアプリケーションを追加でインストールする場合は、メッセージが表示されます。



## 8. メッセージに従って「EXPRESSBUILDER」CD-ROMとセットアップパラメータFDを光ディスクドライブとフロッピーディスクドライブから取り出し、バックアップCD-ROMを光ディスクドライブにセットする。

[ソフトウェア使用許諾契約] 画面が表示されます。

## 9. よく読んでから、同意する場合は、[同意します] をクリックするか、<F8>キーを押す。同意しない場合は、[同意しません] をクリックするか、<F3>キーを押す。



同意しないと、セットアップは終了し、Windows XPはインストールされません。

Windows XPと指定したアプリケーションは自動的にインストールされ、システムにログオンします。システムにログオンすると、[セットアップ情報] ウィンドウが表示されます。必要に応じて、ユーザー名と会社名を再入力してください。

10. 基本情報で「サービスパックの適用」を「する」にした場合は、次の操作をする。

- (1) メッセージに従ってバックアップCD-ROMを光ディスクドライブから取り出す。
- (2) メッセージに従ってWindows XP Service PackのCD-ROMを光ディスクドライブにセットする。



本装置ではWindows XP Service Pack なし/1/1a は、サポートしておりません。Service Pack 2が含まれたWindows XP CD-ROMを使用しインストールされた場合は、再度ServicePack 2を適用する必要はありません。

11. 14ページを参照し、デバイスドライバ（本体標準装備）のセットアップを行う。
12. オプションのデバイスでドライバをインストールしていないものがある場合は、オプションに添付の説明書を参照してドライバをインストールする。
13. 20ページの「障害処理のためのセットアップ」を参照してセットアップを行う。
14. 必要に応じて、「ステップバイステップ インタラクティブ (SBSI)」をインストールする。

SBSIはWindows XPを学習するためのトレーニングソフトウェアです。アニメーションと音声を使用し、簡単に使いやすい学習環境が用意されています。

SBSIは、以下の方法でインストールできます。

- (1) SBSI CD-ROMを光ディスクドライブにセットする。
- (2) 「<CD-ROMのドライブレター >:\%setup.exe」を実行する。  
メッセージに従ってインストールを行ってください。
- (3) 19ページを参照し、システムのアップデートを行う。

15. 26ページを参照してシステム情報のバックアップをとる。

以上でシームレスセットアップを使ったセットアップは完了です。

## 応用セットアップ

システムの環境やインストールしようとするオペレーティングシステムによっては、特殊な手順でセットアップしなければならない場合があります。

### シームレスセットアップ未対応の大容量記憶装置コントローラを利用する場合

最新のディスクアレイコントローラなど、本装置に添付のEXPRESSBUILDERに対応していない大容量記憶装置コントローラが接続されたシステムにおいて、OSの再インストールなどを行う場合は、次の手順でセットアップしてください。



- ビルド・トゥ・オーダーにより、OS組み込み出荷された状態からセットアップを開始する場合には、本操作を行う必要はありません。
- シームレスセットアップに対応しているオプションボードについては「EXPRESSBUILDERがサポートしているオプションボード」(12ページ)を参照してください。

1. セットアップしようとする大容量記憶装置コントローラの説明書を準備する。



本書の内容と大容量記憶装置コントローラの説明書との内容が異なる場合は、大容量記憶装置コントローラの説明書を優先してください。

2. ディスクアレイコントローラの場合は、コントローラの説明書に従ってRAIDの設定を行う。  
RAID設定の不要な大容量記憶装置コントローラの場合は、手順3へ進んでください。
3. 「EXPRESSBUILDER」CD-ROMからシステムを起動させる。
4. シームレスセットアップを実行し、次のような内容に設定されていることを確認する。
  - － アレイディスクの設定画面が表示された場合は、[既存のRAIDを使う]をチェックする



コントローラによっては、設定画面が現れないことがあります。

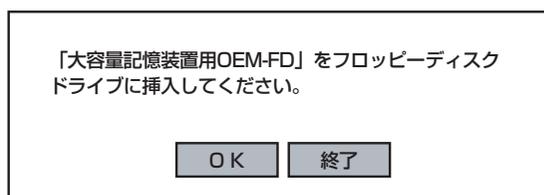
- － [大容量記憶装置用OEM-FDの適用をする]をチェックする



このオプションをチェックすることで、フロッピーディスクで提供されているドライバを読み込ませて、シームレスセットアップを進めることができます。

## 5. シームレスセットアップの途中で [大容量記憶装置用ドライバ] をコピーする。

大容量記憶装置コントローラに添付されているフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、以降は画面のメッセージに従って操作してください。



## マニュアルセットアップ

本装置へのオペレーティングシステムのインストールは、シームレスセットアップを使用することをお勧めしていますが、保守用パーティションを確保しないでオペレーティングシステムをインストールするなど、特殊なインストールに対応する場合、マニュアルセットアップが必要になることがあります。

シームレスセットアップを使わずにWindows をインストールする方法については、EXPRESSBUILDER に格納されているオンラインドキュメント「Microsoft Windows XP Professionalインストールサプリメントガイド」を参照してください。また、あらかじめEXPRESSBUILDERから、各OS用の「OEMディスク」を作成しておいてください。



オプションボードを接続する場合は、オプションボードに添付の説明書も併せて参照してください。

